

# 街フォト スクラップ

みんなのイマをパシャ!!

式典

## 住み慣れた地域での生活をサポート



4月1日、鹿屋市地域包括支援センターの開所式が行われました。このセンターは、高齢者等が住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活を送れるように支援する総合相談機関。複雑かつ増大する住民ニーズに対応するため、市内に4か所あった地域包括支援センターを統合し、吾平町鉄道資料館跡地に開所しました。運営は鹿屋市医師会が担い、関係機関が一丸となって業務を行います。

## はしご付き消防車を新しく配備



3月30日、大隅肝属地区消防組合で「はしご付き消防自動車」の更新に伴うお披露目式がありました。  
この新しい「はしご付き消防自動車」は、これまで使用していた車両に比べ、はしごの高さが5メートル以上延長。また、はしごの先端が屈折する装置など最新鋭の装備が備わっており、困難だった高層建築物における救助などでの活躍が期待されます。

## 恒久平和を祈念し不戦の誓い



4月2日、小塚公園慰霊塔前広場で「旧鹿屋航空基地特別攻撃隊戦没者追悼式」が行われました。  
式典では、来賓による辞書の後、参列者による献花に続いて遺書と平和へのメッセージを朗読。旧海軍鹿屋航空基地から出撃した隊員908人の御霊を慰めるために全国から集まった参列者は、特攻隊員への思いを込めながら、不戦と恒久平和の誓いを新たにしていました。

## 安全安心なまちづくりに向けて



4月4日、鹿屋警察署武道館で「春の交通安全地域安全運動出発式」が行われ、警察や交通安全協会、防犯協会等約150人が参加しました。  
あいにくの雨により屋内に変更して開催された出発式では、安全安心なまちづくりに向けて、関係機関の重点取り組みが発表されたほか、敬心保育園の園児11人が、地域の安全安心を祈願して空手演武を披露しました。

## 災害時の応急対策協定を締結



4月12日、市役所で「災害時の応急対策の協力に関する協定」の調印式が行われました。これは市と県土地家屋調査士会、県公共嘱託登記土地家屋調査士協会の3者が、災害時に相互に協力して対応に当たることを定めたもの。災害発生で建物の倒壊や土地境界標が失われるなどした場合に、登記や境界に関する相談所の開設、境界の情報の収集や復元などを行います。

## 産 業

## 「かのや豚ばら丼」を関西で販売



4月14日～16日、関西地区に140店舗を展開するスーパー「平和堂」で、「かのや豚ばら丼」の販売が行われました。これは昨年開催された「全国丼グランプリ」で金賞を受賞した「かのや豚ばら丼」を全国に向けてPRするために行われたもので、県外で販売されるのは初めてのこと。販売は順調で、用意した3,000食は、ほぼ完売となりました。

## 新社会人としての決意新たに



4月6日、鹿屋商工会議所で「中小企業合同入社式」が行われ、市内20事業所に新たに入社した64人が出席しました。  
新入社員を代表して、株式会社ミスホ商会の牛渡寛さんが、社会の一員としての第一歩を踏み出す喜びを表明し、「いかなる困難にも打ち勝ち、持てる力を十分に発揮して、地域社会に貢献していきたい」と抱負を述べました。

## 熊本地震被災地へ職員派遣を開始



4月18日、大隅4市5町で構成する「大隅半島4市5町復興支援チーム」が発足し、21日に市役所で共同会見及び支援物資出発式が行われました。4市5町の首長による共同会見で、今後の物資支援、職員派遣の内容等について報道陣に説明。会見後は早速現地情報収集員として4人が出発しました。  
今後、4市5町が協力して復興支援に当たります。

## 地 域

## 鹿屋体育大学での飛躍を誓う



4月5日、イベント広場で「鹿屋体育大学新入生歓迎会」が開催されました。  
これは、地域づくり交流事業実行委員会が毎年行っているもので、今年で20回目の恒例行事。  
当日は、かのやカンパチや鹿兒島黒牛、黒豚など地元食材を使った料理が振る舞われ、参加した新入生197人は、鹿屋の味を堪能し、今後の飛躍を誓いました。

## 元気な子牛が鳴之尾牧場に入牧



4月21日、鳴之尾牧場で春の入牧が行われました。  
これは、おおむね6か月～12か月の乳用子牛を酪農家から預かり放牧するもので、今年には46頭が入牧。雨が降り、厚い霧が立ち込める中でしたが、子牛たちは元気いっぱい草を食べている様子が見られました。放牧期間は1年～1年半ほどで、その間受精を行い、分娩の2か月～3か月前に酪農家のもとに帰ります。